

2018年(平成30年)8月20日



## 北海道の容リプラ企業を買収 道内で単独の登録事業者に

田中石灰工業

建設系廃棄物の処理や解体事業で実績を持つ田中石灰工業(高知県南国市、田中克也社長、☎0888・8882・1150)は昨年末、北海道の容器プラ処理企業の株式を100%取得し子会社化した。2005年に高知市内、08年に北海道当麻町に整備した容器プラのリサイクル工場に次ぐ拠点を当てる。

この買収により、容器包装リサイクル法に基づき、その他プラのマテリアルリサイクル処理登録事業者は道内で同社のみとなった。買収先は、旭川市の「シティ・サーベス」で、08年から三笠市で処理工場「エコパーク三笠」を運営。光学選別機を2台備え、年間約1万5000トの容器プラを再資源化可能な能力を持つ。社名変更は行わず、従業員20人を引き続き雇用している。

当麻町の「旭川プラスチックセンター」では、15年に2棟目の処理施設を建設し受け入れを拡大。7台に上る光学選別機や、RPF

造粒機・比重分離機・フィルム分離機等を備える。また高知市の高知プラスチック再生センターでは、破砕機やペレタイサー、光学選別機(4台)等を完備する。北海道・高知の3工場ともに市町村の発注を受けて、家庭から排出される容器プラ等を集荷しており、処理能力は年間7万6000トを超え、国内5位以内による規模とした。

受け入れた容器プラは、素材ごとに選別後、破砕・洗浄・造粒し、フライフやRPF原料等の材料にリサイクルする。同社の田中社長は、「当社は1994年に石灰メーカーとして事業活動を開始し、その後まもなく鉱産事業を手掛け、資源創出企業として出発した。半世紀前にリサイクル事業に参入し、資源循環企業としての歩みも着実に進めることができている。容器プラの再資源化事業の拡大を弾みに、資源や材料の供給事業者として、より一層の発展に努めたい」と話した。